

目次

産学官連携戦略展開事業 コーディネータの成果	1 2
新コーディネータの紹介	2

発明提案シートの新設、展示会・広報活動 特許を出そう！～応用編～特許請求範囲	3 4
外部資金のご案内	4

産学官連携戦略展開事業

産学官連携戦略展開事業が昨年7月に採択され、活発な活動を展開しています。以下に事業の実施状況と今後の事業予定をご報告します。皆様のご協力をお願いいたします。

1. 産学官連携戦略展開プログラム発足式の開催

昨年8月オークラアクティシティホテル浜松において、産学官連携戦略展開プログラム発足式を開催しました。文部科学省研究環境・産業連携課技術移転推進室吉田室長補佐より、戦略展開事業の概要説明をしていただきました。静岡大学、本学学長をはじめ連携6大学の学長や代表者が参加し、中部経済産業局、自治体、商工会議所など連携団体も参加し、戦略展開プログラムを推進する東海iNET(東海イノベーションネットワークの略称)がスタートしました。

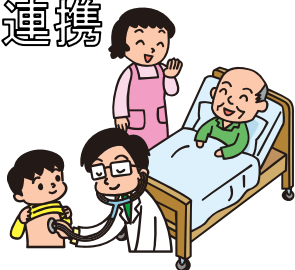


発足の挨拶をする榎学長

2. メディカルイノベーションフォーラム(MIフォーラム)2008の開催

東海iNETが関与する医工連携事業の一環として、MIフォーラム2008を昨年11月に開催しました。冒頭、本学榎学長から主催3大学(豊橋技術科学大学・静岡大学・浜松医科大学)を代表して挨拶があり、フォーラムの経緯や意義が述べられました。基調講演として、京都大学幹細胞医学研究センター長中辻憲夫先生より再生医療に関する現状と問題点が提起されました。続いて、再生医療ベンチャ(株)ジャパン・ティッシュエンジニアリング 畠賢一郎取締役から、再生医療の事業化の経緯について講演がありました。主催3大学から様々なニーズやシーズが報告されましたが、本学の安田教授、澤田教授、三好准教授、名古屋大学の香川助教(本学卒業生)から技術シーズの報告が行われ、それぞれ実用化を目指した内容で好評でした。今後は、このフォーラムをきっかけとしてより緊密な大学間連携、産学連携へと発展し、異分野融合の成果が上がることが期待されます。

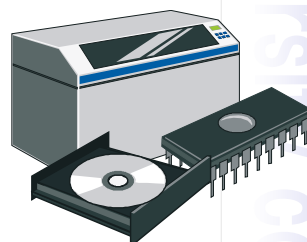
医工連携



農商工連携



オプト連携



3. 今後の事業予定

① 産学官連携戦略展開事業成果報告会開催(2009年3月3日)

標記成果報告会をホテルアソシア豊橋において東海iNET参画機関の出席のもとで開催します。

② 農商工連携セミナー開催(2009年3月3日)

産学官連携戦略展開事業の中で、文部科学省より追加予算が措置されて開催するセミナーで、前記成果報告会に引き続き同じ会場で開催される予定です。農林水産省から施策説明、農商工連携88選の事例紹介、地元の実践例紹介などを予定しています。

③ 東海iNET・JST主催新技術説明会(2009年3月27日)

東海iNETの下で連携する各大学のシーズ発表会を東京・市ヶ谷のJSTホールにて開催し、大学間連携の実績を示すことにしております。

コーディネータの成果

産学官連携成功事例紹介(果実の非破壊測定器“おいし果”)

本学との連携により、新製品開発が進んでいる千代田電子工業(株)から“おいし果”を紹介していただきました。

●概要

果実の非破壊測定器は現在数社から発売されていますが、70～200万円と価格が高い為に一般には普及していません。当“おいし果”測定器は価格の安いフィルターを使うことにより、30万円前後の低価格で提供できることから、生産農家、果物店、スーパー等への普及を狙った商品として、発売を目指しています。

●産学官連携

千代田電子工業(株)	フィルター方式測定器開発
豊橋技術科学大学	近赤外分光分析法の基礎実験等
(株)サイエンス・クリエイト	市場調査、都市エリア事業等支援

●経緯

5年程前に、渥美農高の「カクメロ」切断面の糖度分布に関する新聞記事を拝見し、この画像分析技術をメロンの非破壊測定に応用できないかと、(株)サイエンス・クリエイトを通じて、貴校の中内教授に依頼し、平成16年4月より共同研究開発がスタートしました。その後毎年改良を行い、製品化レベルにまでこぎつけることができ、商品レベルへの仕上を進めています。

●成果

- (1)小型軽量で低価格な普及型非破壊測定器が製品化レベルにまで達することが出来た。
- (2)東海地区信用金庫協会主催のビジネスフェア2008にて最優秀賞を受賞。
- (3)ある県の農業総合研究センターとの間で成約が有り、2台納入済み。

●今後の産学連携

- ・デザイン化／検量線の精度向上等を引き続き進め、商品レベルへの仕上を行い、金型製作／販売準備等を進め、事業化展開を図る。
- ・果物以外の野菜／葉物類等への応用展開を模索していく。



新コーディネータの紹介

産学連携推進本部では、特許相談をはじめとする知的財産または産学連携に関わる業務を行っております。今回は昨年11月より新たに加わった2人のコーディネータをご紹介します。発明のご相談、共同研究や技術移転のコーディネートを承ります。



小西 俊春
農商工連携担当
(内線:3039)

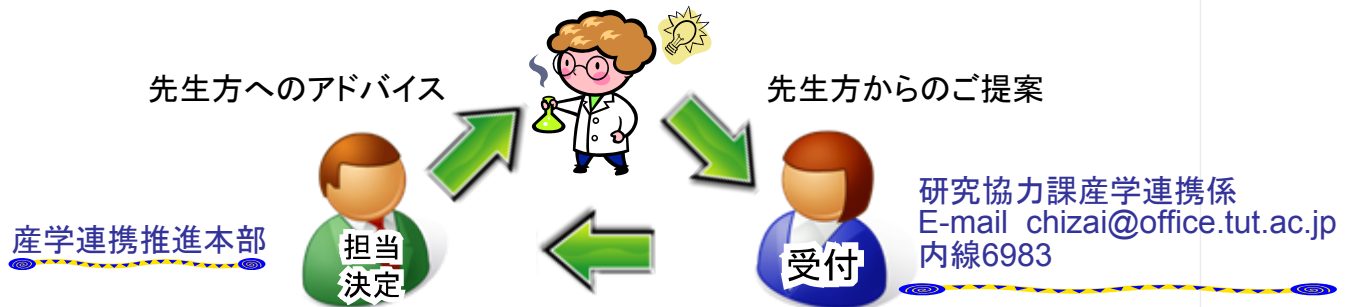


田中 恵
医工連携担当
(内線:3038)

発明提案シートの新設

従来、発明があった場合は、発明届出書の提出をお願いしておりましたが、記入に時間がかかる等の理由で、提出が遅くなる事例がみられました。

今回作成した発明提案シートは、発明が生まれた時点でご記入(手書きでも結構です。)いただくための簡単なシートです。提案をいただいた時点から産学連携推進本部の担当がご協力させていただくことにより、発明届出書の提出もスムーズになり特許出願までの時間も短縮することができます。新しい発明が生まれましたら、お気軽にご記入頂き、下記までご提出下さい。なお、発明届出書による提出も従来同様受け付けておりますので、ご利用ください。



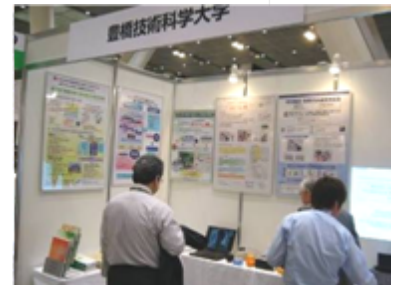
発明提案シートの様式は、産学連携推進本部のHP
(<http://www.chizai.tut.ac.jp/tutonly/200409ken.html>)からダウンロードできます。

展示会・広報活動

昨年10月以降実施した展示会・広報活動12件の内、主な3件をご紹介します。

■ アグリビジネス創出フェア

農林水産省主催のアグリビジネス創出フェアが昨年10月に開催されました。本学は植物の状態を検出するセンサを2件出展しました。1件は千代田電子工業(株)と中内研究室との共同研究の成果である「おいしい果」です。他の1件は福田研究室の光ファイバの先端を被測定物に挿入し、戻り光量の屈折率依存性を利用して植物の状態を観察する評価装置です。また愛知県農業研究所からはIT農業用センサとして澤田研究室のマルチモーダルセンサが紹介されました。全般的に農業用センサの出展が少なく、本学の技術シーズが注目されました。



■ びわ湖環境ビジネスメッセ2008

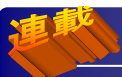
国内最大級の環境産業総合見本市「びわ湖環境ビジネスメッセ2008(第11回)」が滋賀県立長浜ドームにて昨年11月に開催されました。来場者は36,270名(主催者発表)ありました。後藤(尚)研究室のフードマイレージシミュレーションソフトとTLO環境管理者養成塾を紹介しました。多くの来場者から関心が寄せられました。



■ SEMICON JAPAN 2008

セミコンジャパン2008が千葉県幕張メッセにおいて、昨年12月に開催されました。本学からは、各種スマートセンサに関するVBLの研究成果と、金研究室のフッ素電解発生装置を出展しました。フッ素電解発生装置はNEDOの支援を受けた研究成果です。昨年秋口からの急激な経済状況の悪化が影響したのか、例年に比べて出展数も参加者も少なく、特に東アジアからの参加者の減少が目立ちました。その中でも本学研究成果には多くの関心を寄せていただきました。





特許を出そう！～応用編～特許請求範囲

特許請求の範囲には、「特許を受けようとする発明が明確であること。」(36条6項2号)と規定されています。特許請求の範囲の記載が不明確であると拒絶理由、無効理由となり、特許が取れません。以下に事例を示します。

不明確とされやすい記載	× 好ましくない例	○ 好ましい例
技術的でない表現	テフロン*)	フッ素樹脂
比較の基準、程度が曖昧な表現	やや高温	150℃以上200℃以下の温度範囲
任意的付加、選択的事項	必要に応じて設けられたA 例えばA	着脱可能に設けられたA・・・ ・・・である場合に・・・するA
否定的表現	円形でない部材	直線形状を有する部材
上限または下限だけの表現	～以上 ～以下	150rpm以上200rpm以下の回転数範囲
図面等の記載による代用	図1に記載した部品Aを・・・	(「図1に記載した」を削除) 部品A必須の構成を明記します

*) 商品名で特定した構成では実際にどのようなものであるかが理解できないため

外部資金のご案内

NEDO産業技術研究助成事業

＜公募期間＞ 2009年1月8日公募開始～2009年3月12日締め切り

＜内容＞ 若手研究者(個人又はチーム)が取り組む産業応用を意図した研究

＜応募資格＞ 原則40歳未満の研究者(条件により非常勤研究者も対象)

＜助成内容＞ 研究開発期間が4年(5,000万円)もしくは2年(3,000万円)

応募の詳細はHPをご覧ください <http://www.nedo.go.jp/itd/teian/index.html>

JSTシーズ発掘試験

＜公募期間＞ 2009年1月15日公募開始～2009年3月16日正午締め切り

＜内容＞ コーディネータと共に実用化に向けて展開するにあたって試験研究を必要とする研究課題

＜助成内容＞ A(発掘型) 200万円 1,100課題程度、B(発展型) 500万円 50課題程度

応募の詳細はHPをご覧ください <http://www.jst.go.jp/chiiki/seeds/index.html>

産学連携ニュースの記事に関するお問い合わせは、産学連携推進本部「Tel.0532-44-6975(内線6975)、またはoffice@chizai.tut.ac.jp」までお願いします。次回発行は3月頃の予定です。なお産学連携ニュースWEB版を<http://www.chizai.tut.ac.jp/topic/newpage2006.html>に掲載しております。

編集委員長：富田 充(知的財産部リーダー)

委員：岩本容岳(産学連携推進本部専任教授)

林 孝彦(留学生センター准教授)

上松正和(NEDOフェロー)

渡辺久士(客員教授、弁理士)

濱口康典(知財連携コーディネータ)

野中尋史(知財連携コーディネータ)